

こども 会 議 委員募集

こども課家庭支援係
☎079-435-2362



播磨町こども会議
委員バッチ
委員バッチをつけて
活動します。

播磨町こども会議委員に
なりたいたい人を募集します

▼対象 播磨町在住の小学4
年生から中学3年生で、「こど
も会議」に全て出席できる人

▼定員 10人程度

▼内容 子どもの権利についての学
習(研修)。町がつくる条例の案など
について意見交換。条例を広報するた
めのパンフレットづくりなど

▼会議日程 こども会議は、7月・8
月・10月・12月・2月の年5回。基本
的に16時30分〜17時30分の1時間。長
期休み期間は、午前中の実施になる場
合もあります。

※内容の進め方によっては、回数が増
える場合があります。

▼申込み・問合せ 5月23日(金)まで
に申込フォームまたはこども課で申
し込み こども課家庭支援係
☎079-435-2362



こども会議
委員募集

「派遣職員だより」

総務課人事係 ☎079-435-0357

播磨町では、関係機関との連携強化を図るため、職員を様々な団体に派遣しております。
今回は、令和6年度から2年間、一般財団法人地域活性化センターへ派遣している職員から近況をお知らせします。

私は、令和6年4月から、東京にある一般財団法人地域活性化センターへ出向しています。地域活性化センターは、全国の地方創生に関する情報や事例を現地に赴き収集し、全国の自治体等へ情報発信をしています。

また、センターにいる職員の大多数は、全国の都道府県や市区町村の自治体からの出向者で構成されています。出向者は、センターの事業を実施する一方で、地域力創造大学校⑥の本科生となり、現代の公務員に必要な知識やスキル、地方創生を学ぶ期間にもなっています。また、学んだものに基づき、全国の自治体へ研修の提供や、人材育成プランの伴走など、地方創生と人材育成に関

わる幅広い事業を展開しています。

現在、任期の折り返しではありますが、外の世界を見て、大きな経験を得ることができています。この1年では特に、これからの公務組織や公務員の働き方という話が多くありました。

また、人材育成に関する業務に携わり、どういう人材やスキルが今の時代に必要なのかを学んでいます。どちらも役場組織内の内容ですが、時代に合った組織運営や人材が育つことは、住民サービスへの向上や価値創造に繋がっていくものであり、重要な学びでした。

残り1年の任期となりましたが、まだまだ学ぶことがあります。一つ

でも多くの学びと体験を持って帰るため、一日一日を大切に過ごしていこうと思います。

濱田 祐輔(播磨町職員 13年目)



一般財団法人地域活性化センター
<https://www.jcrd.jp/>

5月は「孤独・孤立対策強化月間」です。

つながりたい時に「つながれる」まちをつくる

ひとりでもいい、誰かとつながってもいい。「ひとりであること」自体は決して悪いことではありません。

問題なのは、悩みや困りごとが生じた際にひとりで抱え込んでしまい、複雑化・深刻化する事です。

「つながり」が薄い社会では、誰にでも起こりうる問題です。

播磨町では「誰ひとり取り残されないまち」をめざして、孤独・孤立対策に取り組んでいます。

孤独・孤立対策とは、必要な時・つながりたい時に、「つながれる」まちをつくることです。



播磨町 孤独・孤立対策PR動画
(30秒)

総合相談窓口
☎079-430-6000

(月曜日～金曜日 午前9時から午後5時)
fukusi03@town.harima.lg.jp
それぞれの困りごとに応じた相談先につなぎます

人と人との温かな つながりのあるまち



「居場所」があります
播磨町の居場所マップ

「マップを見て居場所に来ました」という人が増えています。



播磨町の居場所
紹介動画(3分)

みんなとなら 作っていける

子どもたちが将来、
孤独・孤立にならないために

町内中学校の3年生対象
社会保障を学ぶ授業の実施

『15歳からの社会保障
～人生のピンチに備えて～』

(令和7年3月)

社会には人生で困ったときを支えてくれる制度や、支えてくれる人がいます。義務教育を終え、将来社会へ飛び出す生徒の皆さんへ、講師のNPO法人Social Change Agency代表理事 横山北斗先生が社会保障を学ぶ授業を実施しました。



孤独・孤立対策
ホームページ

知らないより、知っているということがすごく大切だなと思いました。これからもし自分に何かが起こったとしても自分は一人じゃなく、必ず誰かが助けてくれるということを忘れずにいたいと思いました。
(生徒感想)

